



立命館グローバル・イノベーション研究機構拠点形成型 R-GIRO 研究プログラム
‘年縞を軸とした環太平洋文明拠点’ 函館シンポジウム

環太平洋の文明拠点：津軽海峡圏の縄文文化

2014年3月1日(土)
午後1時～午後4時



○基調講演

「年縞が解明する縄文の人類史的意味と
その開始をめぐる」

安田 喜憲 (東北大学大学院教授 / 立命館大学
環太平洋文明研究センター長)

○パネルディスカッション

【テーマ】

「津軽海峡圏に展開した縄文文化とその活用：世界遺産登録に向けて」

パネリスト 石森 秀三 (北海道開拓記念館館長)
高木 雄次 (笹川平和財団理事長)
坪井 睦美 (NPO 法人函館市埋蔵文化財事業団事業課長)
矢野 健一 (立命館大学文学部教授)
コーディネーター 阿部 千春 (函館市縄文文化交流センター館長)

■場 所：函館北洋ビル8 F ホール (函館市若松町 15-7)

■参 加：200 名 (無料)

【申し込み方法】 電話、FAX、メールのいずれかで下記までお申し込み下さい。

【事務局】 NPO 法人函館市埋蔵文化財事業団

電話：0138-25-5510 FAX：25-5606 Email: maibun@npo-hako-maibun.jp

*定員に達し次第、締め切らせていただきます



*翌2日(日)には、津軽海峡圏の縄文文化について気候や海洋など様々な分野の研究発表を行います。

場所：函館市縄文文化交流センター / 時間：午前10時～午後4時30分 / 定員60名 (上記にお申し込みください)

主催：立命館大学 環太平洋文明研究センター

共催：函館市教育委員会 道南縄文文化推進協議会 NPO 法人 函館市埋蔵文化財事業団

後援団体：北海道新聞函館支社 函館新聞社 北洋銀行 北の縄文道民会議 北の縄文文化を発信する会

プログラム

開催場所：函館北洋ビル8階ホール（函館市若松町 15-7）

定員 200 名

日 程	時 間	内 容	
3月1日(土)	13:00	開会	
	13:10	基調講演 「年縞が解明する縄文の人類史的意味とその開始をめぐって」 安田喜憲(東北大学大学院教授/立命館大学環太平洋文明研究センター長)	
	14:10	休 憩	
	14:20	パネルディスカッション テーマ 「津軽海峡圏に展開した縄文文化とその活用：世界遺産登録に向けて」 パネリスト 石森秀三（北海道開拓記念館館長） 高木雄次（笹川平和財団理事長） 坪井睦美（NPO法人函館市埋蔵文化財事業団事業課長） 矢野健一（立命館大学文学部教授） コーディネーター 阿部千春（函館市縄文文化交流センター館長）	
	15:55	閉会	
	16:00	終了	

開催場所：函館市縄文文化交流センター（函館市臼尻町 551-1）

定員 60 名

日 程	時 間	内 容
3月2日(日)	10:00	開会
	10:10	発表① 「日本列島に展開した縄文文化と文化領域」 矢野健一（立命館大学文学部教授）
	10:40	発表② 「年縞による縄文時代における東北北部の気候変動」 篠塚良嗣（北海道大学大学院地球環境科学研究科博士研究員）・山田和芳（早稲田大学人間科学学術院助手）
	11:10	発表③ 「北海道南部における完新世の植生変遷」 紀藤典夫（北海道教育大学函館校教授）
	11:40	発表④ 「対馬海流と津軽海流が生み出す生態系-縄文時代から続く水産資源の活用」 安井 肇（北海道大学水産学部学教授）
	12:10	昼食時間
	13:10	発表⑤ 「ヒスイの流通にみる津軽海峡圏の交流」 福田友之（青森県考古学会会長）
	13:40	発表⑥ 「アスファルトの石油地質学的分析と原産地推定」 氏家良博（弘前大学大学院理工学研究科教授）
	14:10	発表⑦ 「土偶と環状列石-定量的分析の可能性」 中村 大（セインズベリー日本藝術研究所共同研究員）
	14:40	休 憩
	15:10	発表⑧ 「北東北の環状列石」 児玉大成（青森市教育委員会文化財課主査）
	15:40	発表⑨ 「石狩低地帯の縄文文化-キウス周堤墓群」 高橋 理（千歳市埋蔵文化財センター長）
	16:10	ディスカッション「環太平洋における津軽海峡圏の縄文文化-その意義と位置づけ」
	16:30	終了

*プログラムは予告なく変更することがあります。